市民の声

市当局や議会、または個人同士の攻撃にならぬご意見をおよせ下さい。

締切り日毎月二十日
宛先き日市役所内広報係

新しい議員に望む

当選おめでとう存じます。連日の御奮斗、ご苦労でした。輝かしい栄冠のかげには、幾多の涙ぐましいもののあられたこととと存じます。ここにお慶びをかね、市民の一人として、率直な願いをのべさせていただきます。

まずわれわれは、選挙の結果に対しては謙虚な気持でありたい。なんとなれば、諸氏も最善を尽されたであろうし、われわれもまた可能なる判断をなした。議員諸氏は、諸氏に寄せられた期待の重さと、意見を異にする者の存在を冷静に正視して、さらに覚悟を新にし厳粛な気持であつてほしいと思う。

この謙虚な気持の永続するかぎり、ややもすれば、民主政治の陥りやすい徒党と衆愚の弊は救われ、諸氏はあくまでも、堂々の職をもつて、諸氏が公にした所信に向つて邁進することができるであろう。

諸氏に課せられた仕事、望まるべきことは多い。しかし要は、諸氏の一人一人が市民の良心として行動されることに尽きると思う。時代は反省を忘れ、恥を知る心を失つている。市民はいまやなによりも清廉の士を待望している。この重大なときに、市民の諸氏に寄せる気持には、まことに切々たるものがある。

なにとぞ、常に選挙時のあの心を心として、気魄をもつて所信に精進されんことを望む。われわれもまた、おおらかな気持をもつて、気永く諸氏の言行を見まもり、建設的な批判と協力をいたしたいと思う。新しい日本の誕生も近きにあろうか。切にご健斗を祈る。

（垣内英伸）

助役問題

真の適任者ならだれでも結構で、職員のうちからでもええが、利己的な感情に支配されて人選を誤つてはいかん、顔より腕が大事せよ。三役や議員の報酬が、他の市並になつても、市政に反映する頭の働きが、並み以上にならなければ助役なんて無用の長物にひとしいからのう。

（香長の中老）

お手並み拝見

大工は仕事にさき立つて人念にノミやカンナをとぐ。いかに名人の大工でも、道具が整つていなくては立派な仕事はできない。市政の運営を建築工事にたとえると、さし当つて市長は大工であるが、機構の整備と適材を適所に配置する適正な人事異動とはいわば道具のカンナのとき方一つをみても、その大工の腕はわかるといわれるが、機構の当否と人事の適否をみれば市長の人格と手腕は大体判断できるので、早く西村市長の人事をとくと拝見したい。これはまた筆者だけの声ではなく、一般市民の注目するところ。いま市民九万の〝目〟は市長の言動を注目しているのだ。

（バロメーター）

南国市長職務執行者、田野田村長の細川幸喜氏には、すでに市長職務執行者としての基本給料月額五万円が支払われた。（同氏ならびに田野田村助役、春田正敏氏は十一月十日現在市役所に勤務中で、その地位は臨時職、これにつき市役所総務課人事係は当日、手当の額はいくらか不明と応答）

南国市合併計画の中には、七カ町村合併の場合、市長の月額基本給は四万円とされていた。

だから市民の多数はこの線か、あるいは大津、介良両村が脱落したから、それ以下と予想していた。

それは至極道理ある予想といえる。

ところがフタを開けてみれば、市長職務執行者にして月給五万円。

この状態だと、市長の給料はおそらくそれ以上になるというのが貧しい市民の心配するところだ。

これまで合併町村当局上層部の一部には、県下では高知市に次ぐ大きい市だからというものがあつた。

そして同市をみならおうとする。

県下第二といつてもそれは人口だけのことだ。

その県下一大きい高知市長の給料は高知新聞の伝えるところによると五万五千円である。

重ねていえば、その高知市の人口は南国市の五倍に近い。まして大きい財源を持つ同市である。

ここで南国市に目を転ずれば人口四万五千にたらず、これという財源もない田園都市である。

まして合併によつて持ち寄つた、一億数千万円の赤字を持つている。

市長以下市役所の職員の給料は、市民の担税力、財源などを考慮して決めなくてはならない。

市民の家庭、または企業体なら、支出は財源を根拠として算出される。

いわゆる均こうのとれた支出である。

どのような給料生活者でもある意味で大衆に養われているが、市から給料を受けるものほど、直接市民から養われているということを考えなくてはならない。

市長職務執行者の給料根拠は、南国市発足前、就任をひかえる職執者と、旧町村の助役、収入役らによつて条例化されたものであるが、なんの根拠によつて算出されたか、その良識を疑う市民の声は大きく、「知らぬは彼らだけ」というほどだ。

また旧町村議長団は発足前事務当局に対し、市議の給料引上げを迫つた。それによると月額議長一万八千円、副議長一万五千円、議員一万円で、これは沙汰止みになつたもののやはり危険とみてよかろう。

ここに市長ならびに市議の良識を求める。

主張　給料五万円は不当

広報、観光課の独立を

観光客が毎年巨額の金を県下に落していくことを考えて、貧乏市にも一貫した観光行政をすすめるため観光専門の課をつくつてもらいたい。

また広報活動も整備拡充をして、市民からの市長に対する諸願、陳情のほか市政に対する要望、苦情の受理に当り、市民の要望を十分市政に反映させるべきだ。もし広報の仕事が市政のうえで軽視される傾向があるとすれば、市政そのものが果して市民と一体となつて民主的に行われているかどうかも疑わしくなつてくる。

（久礼田　百世潮風）

気づかないこと

最近市役所の中に洋服屋が立ち入つて店をひろげ、これをまた勤務時間中の職員が取りまいて時間をつぶしている。

あれが合うか、これがあうか。脱いだり着たり。

また昼食前、はなはだしきは十時すぎから、出入りの商人が持つてくるおかずを取りまいて時間をつぶす。

こうしてロスした時間は人数が多いから数時間におよぶことがあるはずだ。

息抜きはもとより必要で、気分を転換することは能率もあがる。

しかしいまの状態はあんまりだ。

給料もよくなつたことだしもう少し勤労意欲を高めてほしい。

とくに、おかずの選り好みは正午になつてからすべきではないか。市長にしても労務管理の点を考えなくてはなるまい。

（中町　みたに）

うらやましい

三十万円も四十万円も退職金を取つた南国市の合併五カ町村の助役さんや収入役さんは、一時ではあるが市の嘱託に採用されて日当千円をもらつたそうな。

失対の私たちは夢にもみえぬ日銭である。

まして旧野田村長はなんとかゆう職について月給五万円をもらつたと聞く。

市には、どこにそんな金があるのだろう。

こんな話を聞くたびに、貧乏な私はヤケを起したくなる。

市長さん、どうか、これから万人が納得のいく金の使い方をして下さい。

（長岡　一失対）

人事のムダをはぶけ

市立香長中学校三和分室主任（校長）高石文一氏は、めずらしい教育をやつて効果をあげている。以下はその方法を明らかにする同氏の手記である。

騒然とした世相のなか特に勤評の風のまん中に立たされた学校長の心身は消耗する。

勤評は法に定められてあるのだから、たとへ悪法と云はば云へ、その責任は我々にはない。この際公務員として強行実施するのは我々に課せられた義務であるとする県教委の上層部の人々或は父勤評反対に歴史的な意義を感じ教職、休職、辞職或はそれ以上の覚悟もむしろ殉教的なよろこびをもつて迎へると云ふ教組の指導者ともにわり切つてなやみはないであろう。

しかし乍ら少くとも一校経営の責任を負い、日々伸びてゆく生徒をあづかつている学校長や具体的な一郡の教育の振興の責を負う教育事務所長などはそう単純にはいかない。

かつて教育事務所勤務当時上司に「土長両郡教育振興のために……」という言葉をつかつて「そうまじめに考へるとノイローゼになるぞ」と笑はれたことがある。誠実な人ならノイローゼになるのが当然でならないのは余程修養をつんで人間ばなれのした人か、さもなくば非常な悪玉であるといへると思う。

このふんい気のあたえる影響は大きい。精神的な仕事である先生には案外ノイローゼが多い。又次第に増加の傾向がある。

当然教育の現場に形となつて表はれて来ずにはいない。昨年四月七年振りに学校長として現場に出てそれがあまりにも想像以上である事に驚いた。先生も落付を失つて足が地についていない。

生徒はなおさらである。廊下をどんどん走り廻る、男の子だけでもない女の子も奇声をあげて外へ飛び出している者がある。次から次へと窓ガラスを破る。しとみ、教室の腰板をけ破る。机、腰掛をころがし或はなげる。ゆすつてこわす。教室には満足な教卓が一つもない。天板と骨だけになつてゆらゆらしている。池には腰掛やバケツがいつもなげ込まれて一ツ二ツは浮いている。拾つておけば又くり返す。自転車に乗つたまゝ廊下を通る者がある。授業時間中に帽子をきて席にいるものがある。雑誌を読んでいるのは静かでよい方で声高に勝手な話をしてうしろに立つと先生の話しがよく聞えない。音楽の時間などうしろの方でねころんでいる者がある。

もう学校全体が何かにつかれた様な一種異様な空気がただよつている。話しにはよく聞いていたがまさかこれ程であろうとは思はなかつた。これではおよそ学校と云う観念からは離れた何ものかになつている。何とかしなければならない。

このざわざわした空気をどうして落付けるか、それが私に課せられた大きな問題であると思つて真正面から取り組む覚悟をきめた。考へる。何日も何日も大工を入れて完全に修理をした、又こわしてくるので年に数回にわたつて修理をした。教室の腰板など殆んどとりかへる位になつてしまつた。校具もほとんどこわれているので修理に力の大半を使う事になつた。ガラスは何枚こわしても破れたところは二日以上おかない様に次から次へと新しいものを入れる様にした。修理、破損修理と根気よくくり返して行つた。

教室のよごれを洗い落す様にさせ生徒といつしよになつて柱や窓枠に至るまで洗つた。今では校内の柱と窓ガラスの枠で私の手にさわつていないものはない位になつている。二学期になつて全体清掃の時間を除いて自発的にめいめいが朝早く来て掃除をする様にしたがする者はない。私はここであせつてはならないと思つた。

そうして一番早く学校に来て生徒を迎へる事にした。脚気養生ですかと校長に授業を持たしてないからと云う先生もあつたが私は物がこわれているのを修理するだけでなく、精神的な面も考へた。どんな悪い日でも雨の日は廊下雨でなければ舎外の掃除を毎朝続けた。一切の強制はせず一人やるだけだが、しばらくすると女生徒のまじめな者が少しづつこつそりと手伝うかの様にする者が出来だして来た。

私は気永にそれをまつていたのである。けれども学校全体の空気がそれによつて改まるなど云う様ななまやさしいものではなかつた。

朝の掃除の時間をのぞいたのは朝の掃除は大部分の生徒がさわぎ廻り女子の一部の人しかやつていないという事とこの騒しい空気がそのまゝ次の学習の時間におくりこまれるからである。掃除のかわりに静かに学習ができるドリルの時間として全校放送による珠算を十分間行う事にした。珠算は自然と注意を集中させ騒ぐとできないので校内に静かな一瞬が出来た。この考へ方は成功し生徒の気持はぐつと落付いて第一時の学習に入る事が出来、先生も授業が楽になつたと云う様になつた。

しかしこれは一日中は続かない。何とかして持続する方法はないものか。とにかく少しの時間でも落付いた時間が出来たのであるから何とかなるとのいとぐちが出来た事は非常にうれしかつた。それから三学期に入り私は朝生徒が学校へ来てから下校まで一日の生活を詳細に検討して心理的に無理のない様にすると共に学校教育全面の場について再検討しこれを組織化し構造化する様案をねつた。

原案は私が提出して丹念に職員と共に考へ更にねり直して修正に修正を加へたが若い先生は根本的な問題を解決させなくては収まるはずがない。だから我々は教組の一員として努力しているのだと云う。

それはそうかも知れない。しかし今この生徒をほうつておく事はできない。だから私は一番平易なわかり切つた事からはじめる事にした。

第一に職員室の清潔整頓である。毎日花をいけて殺風景な空気を少しでも除いて行こうとした。そして大工をよんでこわれた所は一切修理し汚れたものは洗い落し破れたものはのぞいた。校長自身が床をはき机をぬぐいガラス窓をみがいた。

来客が職員室が明るくなつたと言つてくれる様になつた。

次が教室である。腰掛、机教卓、指導机、黒板、完全なものは一つもないと云つてよい。修理が大変であるが、今年度に入り新学期から全面実施に入つた。週案が掲示場にはり出されて次の何曜の何時間目は何をどう学習するか予習はどうしてくれればよいかが生徒にわからせられた。

集団によるグループ学習の方法がとられ生徒は自ら自発的に学習が出来だした。

教化外活動も一人一役主義がとられすべての生徒が何等かの目的をもつて何等かの働きをする様になつた。

此の時期になると、学校全体に落付きと明るい学校が出来て来ていた。

それぞれの部面に生徒にもリーダーが出来同僚の先生もテキパキと動いてくれてもう昔の面影はないといつてもよかつた。それでも学級にそれぞれ一、二名の落付かないものはあつてもそれが全体の空気を支配するところとはならないほどの土台がしつかりとできてきたのである。

学校参観に来られた父兄も学校が明るくなつた落付いて勉強が出来だしたとよろこんでくれる様になつた。

思へば夢の様な一ケ年ではあつたが其の間に私自身に何か自信がもてる様な気が出来てきた。貴重な教訓として所謂人を教化するところの呼吸をのみ込む事が出来た。後に由に入つて修業して来たかと聞ふ人もあつたが、私は殆々しい二百二十名の生徒にかこまれて少しづゝ自分にたしかに出来ると云ふ確信さへあれば必ず出来るといふ信念を育てて来ていたのである。

たまたま一年生に今年高知大附属小学校を卒業して入学した男の子でどもる癖のある生徒があつた。

入学式の後で母親からもきいていたし同僚の話しにもきいていたが実際にみるまで大したものではないと思つていた。ところが殆んど本も読めないので何としても直さねばならない。又直す事が出来る。やつてみようと云う気になつた。

放課後本人をよんでみるとおどおどしているし息を吸ふ時に声を出そうとして無理していることがわかつたので横にならせて腹式呼吸をさせ心を落つけ下腹に力を入れさせてから言はすと楽に言へる。これを二、三日繰りかへして今度は本を読ましてみる。少しは読める様になる読めた時はどもつた事は知らぬ顔をしてよく読めるではないか。大分どもりは直つたと云ひきかせて帰校させた。学校参観日に母親がお礼に来た時「どもつてお話しが出来ないのでは上級学校にも入れないしかりに入れたとしても明朗にされます。これでは一生棒にふつた事になります。どうしても直さねばなりません。大分なほつて来ていますが何とかして直してみませう」と言つておいた。

どうしてもなほりたい気持とどうしてもなほしたい気持が一つになつてこゝに気合術とも催眠術ともつかないものが出来た。私がどもると言へばどもるし口があかないと言へばあかないし声が出ないと言へば出ないし。すらすら読めると言へ

精神統一法で

落ちついた学校に

高石文一

（四ページ七段へつづく）